



学んで広がるみんなの輪

発行
登別市教育委員会生涯学習推進室
社会教育課
電話 88 - 1154

明日をひらく窓

《きらり はつらつ みちたり ライフ》 学ぶ楽しみ、交流の輪が広がっています

登別市の生涯学習の機会とその場合は、十五年経過する中で、学びたいという市民のニーズに応えられるよう整えられてきました。

現在、ときめき大学生、五百六十名、婦人短期大学生、二百十名のみなさんがそれぞれの課題を持って学んでいます。また、文化活動やスポーツ、趣味・特技を生かしたサークル活動が活発に行われています。学ぶ輪が全世代にわたって広がりをを見せています。

今回、ときめき大学、婦人短期大学で学んでいる方々に活動の様子や感想などを話していただきました。

「ハーモニカグループ」

富士町 樋口 幸子

楽器が小さくてなじみやすいせいか、初心者でも気軽に入部しています。先生には楽譜の読み方から教えていただき、大変ご面倒をおかけしています。覚えるより忘れることの方が多いですが、一生懸命練習しています。今まで何度か発表の場もありましたが、これからも少しでも皆さんに楽しんでもらえるようになるため、週一度の練習をできるだけでも休まないよう楽しみながら勉強しています。



「フラダンスグループ」

常盤町 宮川 菊枝

生涯学習の一環として平成十四年に発足し、現在四十一名の会員が講師の先生の下に練習に励んでいます。南国情緒たっぷりのメロディに乗って踊っている時は、年齢のことなど全く忘れてしまいます。昨年は、苫小牧のフラダンスグループと初めて交流を持ち、より一層意欲に燃えたようです。

このような活動ができるのも、ときめき大学のお陰と心から感謝しています。



「すこやかグループ」

千歳町 猪俣 トヨ子

平成十四年に誕生した時は、少人数でしたが、今は三十名の会員で活動しています。昨年は帯広市の「わかば会」との交流を行いました。主な活動内容は、ゲームによる頭の体操や軽い全身運動です。屋外では、地球岬やポロト湖での水芭蕉散策、パークゴルフや焼肉などをしたりして会員の和を図っています。

今後も会員の和を大切に心と体の健康維持のために活動を続けたいと思います。



「郷土の歴史を学んで」

富士町 川村 良生

昔から住んでいたアイヌの地、そこに本州から移住し、切り開いて発展していったこの町の事、それらはすべてが事実であり、その事実の積み重ねの中に私達はいる。それが歴史であり、その歴史をより学んで知ること、郷土に対する愛着が生まれ、ここに住んでよかったという事を実感できたのです。心を豊かにするために郷土を学ぶことが大切だと思います。

「新聞グループ」

常盤町 赤塚 幸吾

現在十七名のメンバーで、新聞切抜きを持ち寄り、同会者を決め、話し合い(討論)をしています。年金問題、市町村合併問題など身近な話題に意見を出し、ディスカッションに熱が入ります。みんなで議会傍聴に行ったり、室蘭民報社をたずねたりしています。若い人に負けないように勉強しています。

「楽しかった社会見学旅行」

桜木町 水戸部 静子

七月十五日、婦人短大・ときめき大学合同社会見学「北海道開拓の村」に参加しました。総勢二四八名、七台のバスに分乗して、まるで小学生の修学旅行の様なにぎやかさで、広い村内を自由見学、開拓当時の生活や文化の流れを示す建造物など興味深く懐かしく、皆で昔話に花を咲かせました。また、青空の下、芝生で頬張るおにぎりは格別の味がしました。



新市民プール

オープン三カ月を経過して

市民プール館長 三浦良悦

オープン以来、利用者数は昨年同期実績に比べ約四・五倍の好調振りであり、この要因として、新市民プールは単に水泳を目的とする施設から、健康づくりやリラクゼーションなど複合的な機能を持ち、子どもから高齢者、障害者の方が気軽に楽しめる施設であり、クリンクルセンターのごみ処理の余熱を利用し、ランニングコストをおさええたコンパクトで機能的な施設であります。

また、同施設の目玉企画である水中運動教室は、水の浮力や抵抗を利用した七種類二十教室の多彩なメニューを用意し実施しております。

これらに加え、トレーニングルームを併設して各種機器を取り揃え筋力アップや心肺機能の向上が図られ、専属のトレーナーが個人にあったプログラムを作成するため、非常に好評であります。

今後は、施設の利用者の協力を得てアンケート調査を行い要望を取り入れ、より市民に喜ばれる施設としていきたいと考えております。



公認競泳用プール



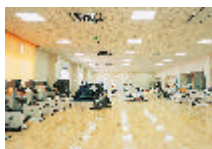
多目的プール



流水歩行プール



リラクゼーションプール



トレーニングルーム



身障者用更衣室

健康づくりの場～登別市民プール

電話:(0143)85-5588, FAX:(0143)85-5488



リフレッシュ教室

リラクゼーション、アクアアウオーキング、アクアストレッチ腰痛体操など

水中健康グッズ教室

器具を利用した筋肉トレーニングやアクアリラクゼーション

リハビリ教室

筋肉をつけたり、関節や筋肉が硬くならないように予防改善

元気アップ教室

アクアアウオーキング、アクアストレッチ、腰痛体操など

アクアピクス教室

音楽に合わせた楽しい水中エアロピクスダンス

予防改善教室

腰痛、膝痛、肩こりなどの予防改善アクア

3カ月間の利用状況(6月1日～8月31日) 単位:人

区分		6月	7月	8月	計
プール及び トレーニングルーム	幼児	215	499	711	1,425
	小中学生	3,243	5,980	5,327	14,550
	高校生	54	116	121	291
	一般	4,628	6,151	5,946	16,725
	高齢者	1,284	1,692	1,541	4,517
ルーム トレーニング	中学生	41	44	21	106
	高校生	44	35	23	102
	一般	895	832	737	2,464
	高齢者	20	38	32	90
計		10,424	15,387	14,459	40,270
水中運動教室		6月	7月	8月	計
リフレッシュ教室		30	25	19	74
シェイプアップ教室		41	49	45	135
リハビリ教室		10	16	15	41
水中運動グッズ教室		25	36	28	89
元気アップ教室		43	33	30	106
アクアピクス教室		105	121	113	339
予防改善教室		33	39	30	102
計		287	319	280	886



郷土資料館・文化伝承館

夏休み特集は、8月4日(水)から6日(金)まで、市立図書館と鷺別公民館を会場に工作教室を開きました。4日と6日は「しん工作」でトイレットペーパーのしんと段ボールで、いす型の花台を、5日は「発泡スチロール工作」で、動物パズルを作りました。普段なら捨てられる物でも工夫すれば、楽しめる作品ができることを親子で発見しました。

市立図書館

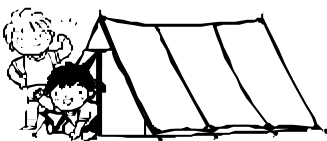
夏休み工作教室は、7月28日(水)・29日(木)の2日間行われました。一日目は、牛乳パックと割り箸を使って、パンパカパーンとグライダーを、二日目は竹コプターと万華鏡を作りました。親子で50名の参加があり、SLGの方と職員の指導のもとに、参加者全員上手に完成させました。お父さん、お母さんも真剣そのものでした。



夏休み親子で先ずやるべき体験



☆ ☆
☆



ネイチャーセンター(ふおれすと鉾山)

室蘭、伊達、登別三市のスポーツ交流陸上大会は、8月10日(火)室蘭市入江陸上競技場を会場に開催され、365名の選手は青空の下で精一杯持てる力を発揮しました。登別からは、104名の選手が得意とする種目に出場し、立派な成績を残しました。

三市スポーツ交流陸上大会



小学4年生から6年生までの子どもたちが、8月4日(水)から三日間の日程で、カムイヌプリ登山サマーキャンプに挑戦しました。すごく暑い日でしたが、みんながんばって頂上を目指しました。

山小屋での一夜、ネイチャーセンターでのキャンプファイヤーなど思い出の三日間となりました。

8月13日(金)から15日(日)までの「夏休みスペシャルウィーク」では、クライミングボード、魚拓作り、野外観察などに子ども達が多数参加し、親子で楽しむ姿は夏休みならではの光景でした。

これからも、土曜、日曜に楽しくできる体験学習を予定しています。みんなで来てくださいね。

市立図書館：85-4324

郷土資料館・文化伝承館：88-1339

ネイチャーセンター：85-2569

第二十一回登別市少年の主張大会

最優秀賞に西陵中三年 志水いづみさん

去る六月八日(火)幌別中学校を会場に市内中学校十名が集い、「登別市少年の主張大会」が開催されました。十名の生徒は、自分の生活環境の中で感じていたり、考えていることを堂々と発表しました。

最優秀賞に選ばれた志水さんは「言葉をみつめる」という題で、日常何気なく使われている「ウザイ」とか「きもい」「むかつく」というような一言が、相手の心に深く影響を与えていること、このようなすさんだ言葉は、その人のすさんだ心をそのまま表しているのではないかと。「言葉には、使う人の心が宿ります。使い方次第で誰かを喜ばせることもできるし、傷つけることもできます。」このように聴衆に訴えました。中学生に日頃の言葉使いを見つめ直すきっかけを与えてくれたように思います。



最優秀賞 西陵中3年 志水いづみ
 優秀賞 西陵中1年 今田麻奈未
 奨励賞 登別中3年 小林綾香
 努力賞 幌別中2年 坂本春菜

次代を担う子どもたち

中学生海外派遣研修事業

登別市中学生海外派遣団八名は、八月八日から十日間の日程でデンマークのリンゲやコペンハーゲンなどを訪問し、折り紙や鬼踊り、歌などで交流を深めてきました。リンゲで五日間ホームステイを行い、観光やファミリー間の交流を深めながら、異国の歴史や文化、生活習慣に触れ、日本との違いを学びました。

また、一行はチボリ公園、イーエスコール城や世界遺産に登録されているロスキレ大聖堂とバイキング博物館など見学してきました。



北海道ジュニアセミナーに参加して

～国立大雪青年の家の四日間～

緑陽中学校 二年 渡辺剛行
 登別中学校 二年 千葉航平

僕は夏休み、このセミナーに参加して、多くのことを体験し、多くのことを学びました。

十勝岳登山では、自然の厳しさを知り、棒高跳びの小野真澄さんと民謡江差追分全国一位の木村香澄さんの講話では、目標達成への努力と粘り強さの大切さを改めて学びました。課題別ディスカッションでは、学校生活や環境などについて本音で話し合うことができました。

あつという間に時間が過ぎて、いつしか、みんなと別れるのが嫌になる程、信頼できる仲間となりました。
 この四日間の貴重な経験を、僕達のこれからの生活に生かしていきたいと思えます。

青少年の事件事故防止に向けて

～青少年補導センター～
 (電話 88 1154)

補導センターは、専任補導員四名と教職員・市民六十二名の補導員で、市内を五つの地域に分けて、青少年の危険な行為や遊びなどに注意を払いながら巡回活動を行っています。

青少年の万引き防止では、万引き調査を六十数店にお願いし、補導センター、店舗、学校の三者間の連携を密にしながら、再発防止等を図っています。

また、不審者・変質者から子どもを守るために、「こども110番・スタディちゃんの家」を新たに七十数箇所設置し、登下校時など、子どもの目により触れるようにしました。
 これからも、補導センターは、青少年の事件や事故を防止するために、地域や学校の防犯活動といつも連携を強めながら活動していきたいと考えています。



海岸を巡回する補導員